



加賀市では、R5年度に「加賀市立学校における学校運営協議会に関する規則」が公布され、全ての小中学校でコミュニティスクール（以下CSと略）が導入されました。その運営状況を知るために、加賀市内教職員及び加賀市内小中学校CSコーディネーターにアンケートを行いました。以下に報告します。

教職員アンケート結果から (回答数330 回答率70%)

Q1 「学校運営協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ」

- ・あてはまる 43.3%
- ・どちらかといえば、あてはまる 52.5%
- ・どちらかといえば、あてはまらない 4.2%
- ・あてはまらない 0.0%

Q2 「地域の人と協力することで、自分の授業の内容の向上につながったことがある」

- ・あてはまる 24.6%
- ・どちらかといえば、あてはまる 49.8%
- ・どちらかといえば、あてはまらない 17.5%
- ・あてはまらない 8.1%

Q3 「CSによる学校支援ボランティアのサポートにより、業務負担が軽減されたと実感できた」

- ・とても実感できた 12.1%
- ・少し実感できた 38.6%
- ・あまり実感できない 34.0%
- ・ほとんど実感できない 15.3%

CSコーディネーターアンケート結果から (回答数21 回答率95%)

Q4 「学校運営の基本方針の承認にあたり、学校運営協議会委員による議論が行うことができた」

- ・あてはまる 71.4%
- ・どちらかといえば、あてはまる 23.8%
- ・どちらかといえば、あてはまらない 4.8%
- ・あてはまらない 0.0%

Q5 「学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある」

- ・あてはまる 52.4%
- ・どちらかといえば、あてはまる 33.3%
- ・どちらかといえば、あてはまらない 14.3%
- ・あてはまらない 0.0%

Q6 「地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある」

- ・あてはまる 28.6%
- ・どちらかといえば、あてはまる 38.1%
- ・どちらかといえば、あてはまらない 33.3%
- ・あてはまらない 0.0%

〈令和5年度 成果と課題〉

ほとんどの教職員がCSの学校運営協議会についての意義を認める中、「授業の内容の向上」に「あてはまる」と答えた教職員は24.6%でした。また、「学校の業務軽減」につながったと肯定的に答えた教職員は50.7%でした。そして、学校側の提案を承認するだけでなく、運営協議会側から建設的な提案を行うことができている学校が85.7%にとどまり、できていない学校が14.3%見られました。さらに、地域住民から運営協議会に学校に対する意見や提案が持ち込まれていない学校も1/3ありました。以上のことから、CSの取組はまだまだ地域と結びつきが弱く、その活動が学校に還元されていないことがわかります。

R6年度では、CSの取組を地域の中でさらに位置づける必要性があります。